

DEBUT 首長

長崎県五島市長 野口 市太郎氏

役所だけでは豊かになれず 住民参加の地域扶助に期待

五島市 長崎県本土の西約100 kmの海上に位置し人口は約4万人。2004年の1市5町合併で誕生。キリスト教会が多く世界文化遺産の登録を目指す。

——選挙戦では特に経済対策を訴えた。

離島の五島を取り巻く経済環境は厳しい。主要産業の農林水産業は価格低迷や後継者不足に直面。観光は年間70億円前後の収入があるが、ここ数年は微減傾向で修学旅行客も減っている。最近の格安航空会社(LCC)の台頭で航空運賃が劇的に下がっているのも離島観光の脅威。離島には船か飛行機で来るしかないの、相対的に交通費が高いイメージを観光客に与えるからだ。離島観光の魅力を高めるようなサービス向上が不可欠と考えている。

——具体的な活性化策は。

まず産業振興に取り組む。離島の農林水産業は輸送費が余計にかかる分、本土の競合産地よりハンディがある。国の予算を使って出荷の際の負担軽減策を講じたい。観光では2014年に

長崎で国民体育大会が開かれる。宿泊施設を整備し、おもてなしなどの人的なサービスを充実する。

次に市民の主体的な地域活動を支援する。五島市民は3人に1人が65歳以上の高齢者。一人暮らしのお年寄りが引きこもりになったり地域で孤立したりしないよう、老人が気軽に集まれる拠点を作る。そこに子供が遊びにきたり、若い母親が子育ての相談をしにきたりといったことができる環境を作りたい。選挙戦では「役所だけで五島を豊かにできない」と訴えた。市民と連携して地域全体で高齢化の問題に対処していく。

第3に島内消費の拡大と地産地消を進める。どんなに農林水産業や観光を振興しても、せっかく得た金が島外に流出したら、経済は回らない。長崎市に買い物に行ったり、通販を利用したりなどでお金がどんどん島外に出て行き、それが五島の雇用流出や商店街の疲弊につながっている。市民には中元や歳暮などで可能な限り地元産品を買って欲しいとお願いし、店主にも



のぐち・いちたろう 1955年長崎県福江市(現五島市)生まれ。78年長崎大学経済学部卒。長崎県庁入庁。財政課、人事課などを経て2008年五島地方局長。10年水産部長。五島で開かれたトライアスロン大会に刺激を受け4年前からマラソンを開始。フルマラソン歴は2回で4時間を切るまでになった。妻と2男。

品ぞろえの充実を求めていく。

第4に自然エネルギーの利用拡大を目指す。現在、国の助成で電気自動車の普及実験を島内で展開している。また洋上風力発電の実験も始まった。自然の豊かな五島は自然エネルギーの宝庫。洋上風力発電所が恒久的な施設になれば、電力が安く供給できるようになり、企業誘致の大きな武器になる。

——行政改革については。

市町村合併で五島市が誕生して丸8年。合併後10年で人件費などに充てる国の地方交付税交付金が段階的に減らされる。現在は旧5町の首長や議員の数が暫定措置で交付金の算定に使われているが、今後は減る。行政サービスの水準をある程度引き下げざるを得ない。市民に痛みをお願いするのだから、行政側にも痛みを伴う改革が必要だと考えている。

(聞き手は

長崎支局長 木ノ内 敏久)